

## 外来新患診療体制表 平成22年7月現在

(宮城県立がんセンター)

診療科	曜日	月	火	水	木	金
消化器科		●	●	●	●	●
内科	血液内科	●	●	●	●	●
	循環器科	●		●	●	
	化学療法科	●		●		
呼吸器科		●	●	●	●	●
外科	乳腺科	●	●	●	●	
	外科	●	●	●		●
整形外科			●		●	●
脳神経外科		●		●		●
頭頸科(耳鼻いんこう科)		●	●		●	
形成外科			●			●
婦人科		●	●		●	
泌尿器科		●		●	●	
放射線科		●	●		●	●
緩和医療科				●		●

診療受付時間：午前8時30分～11時00分までをお願いします。  
TEL (022)384-3151(代) FAX (022)381-1169

### 宮城県立がんセンターセミナーのご案内

月日	名前	所属	分野・題名
9月10日	高津聖志	富山県薬事研究所 所長	免疫アジュバントと抗腫瘍免疫
10月22日	宮園浩平	東京大学大学院医学系研究科分子病理学分野教授	TGF-βシグナルによるがん幹細胞の機能制御
11月5日	伊東恭悟	久留米大学免疫・免疫治療学講座 教授	実用化に入ったがんワクチン療法
11月12日	落谷孝広	国立がん研究センター がん転移研究室 室長	RNAiによるがん幹細胞を標的とした治療戦略
1月14日	赤司浩一	九州大学大学院医学研究院 病態修復内科学 教授	造血系腫瘍幹細胞の成立機構
2月4日	佐谷秀行	慶應義塾大学医学部先端医科学研究所 遺伝子制御研究分野 教授	癌幹細胞の性状解析と新たな治療戦略の考察



**交通案内**

J 東北本線名取駅下車、バスまたはタクシーを利用  
R 名取駅西口から「県立がんセンター線」(なとりん号)を利用  
仙 名取駅西口から「北目上原線」(なとりん号)を利用  
南 仙台南インターからは、国道286号バイパス経由  
交 仙台・岩沼線を利用 (所要時間約15分)  
通 自家用車

**地域医療連携室のご案内**

地域医療機関の先生方からご紹介を受けた患者さんの診療予約をお取りしてスムーズな受診ができるようにしております。

○受付 午前8時30分～午後5時15分  
○TEL (022) 384-3151(代) 内線115  
○FAX (022) 381-1169

**宮城県立がんセンター**

〒981-1293 宮城県名取市愛島塩手字野田山47の1  
電話(代表) (022)384-3151 FAX(総務班) (022)381-1168

ロゴマークの3本の柱は「治療、予防、研究」を、上の「まる」は患者さんを表わしています。3本の柱が、患者さんを支えるという意味です。

# 地域医療連携室だより

宮城県立がんセンター



## 法人化を控えたがんセンターにおける 研究所の役割

宮城県立がんセンター総長兼研究所長 菅村和夫



H22年度の地域医療連携だより(第1号)をお届けいたします。皆様ご存じかと思いますが、宮城県立がんセンターは、他の県立2病院(循環器・呼吸器病センター、精神医療センター)とともに、平成23年度から地方独立行政法人に移行し一体的な運営体制となります。公的病院を法人化する最大のメリットは、「人事

などの面で柔軟性を持たせ、迅速な経営判断が可能となる」点にあります。もちろん、法人化されてもがんセンターの使命に変わりはありません。がんの高度・専門医療を提供し、がん診療連携拠点病院として地域がん医療の均てん化に努めると共に、がん研究においても優れた研究成果を挙げる事が求められています。法人化後も3病院が発展を遂げ、県民の皆様に対して優れた医療を継続的に提供するためには、経営の安定化が欠かせません。昨今の厳しい医療情勢ではありますが、県立3病院の経営収支は、昨年度までの赤字から黒字に転換する見込みとなっております。県の負担金がこれまで通り担保された場合には、健全な財政基盤を背景に法人化をスタートさせることが可能です。しかし、県財政も決して楽観視できる状況ではないことを考えると、私たち職員には、がんセンターの経営改善に向けた不断の自助努力が求められます。

さて、私は本年度から研究所長を兼務しております。研究所を単なる非採算部門と捉らえる向きもあろうかと思いますが、決してそうではありません。研究所の役割と存在意義を再確認しておくことが法人化後のがんセンター運営にとって大切であると考えます。これまでも研究所では、基礎研究者と臨床医が協力しながら臨床応用を目指したがん研究に取り組み、優れた研究成果を挙げてきました。がんを専門とする臨床医は、がん研究にも十分な資質と知識をあわせもち研究マインドを持った人材であることが求められます。幸い、研究所には東北大学医学系研究科の連携講座が設置されていますので、がんに興味を持つ修士・博士課程の大学院生も直接受け入れて研究指導を行っています。特筆すべき点は、がんセンターに籍を置く臨床医が社会人大学院生として診療と研究活動を両立させ、学位取得する人材育成システムが構築されたことです。充実した研究設備を有していることはもちろん、患者様同意の下にがん組織を一元的に補完するTissue Bankも整備されていることから、臨床に直結する次代のがん研究やテーラーメイド医療を支援する魅力的な研究環境が整っています。当がんセンターががんの診療・研究・教育のリーディングセンターであり続け、県民に最先端のがん医療を提供するためには、研究所の存在が不可欠です。県民の皆様は、がんセンターの病院と共に研究所に対してもより一層のご理解を賜りたいと願う次第です。





外来化学療法室

化学療法科 科長  
村川 康子  
主任医長  
酒寄 真人



# 化学療法科

## 安全・安心の抗がん剤治療

### —分子標的薬をいち早く導入—

化学療法科では最新の抗がん剤治療を入院また外来で、安全・安心に行うことに力を注いでおります。第一に、最近開発が急速に進んでいる分子標的薬と称される新薬をいち早く取り入れております。しかし、これらの薬剤はこれまでの抗がん剤とは異なった副作用をもたらすことがあり十分な注意が必要です。

## チーム医療で副作用軽減

### —新しい制吐剤で食欲改善—

そこで、看護部・薬剤部と密接に連携しながら治療することを心がけております。第二に、抗がん剤治療により患者さまの生活の質が損なわれることがないように配慮しております。たとえば、抗がん剤治療で最も困る副作用である食欲不振や嘔気・嘔吐に対しては、より強力な新しい制吐剤を使用することにより多くの患者さまは食事を楽しむことができます。

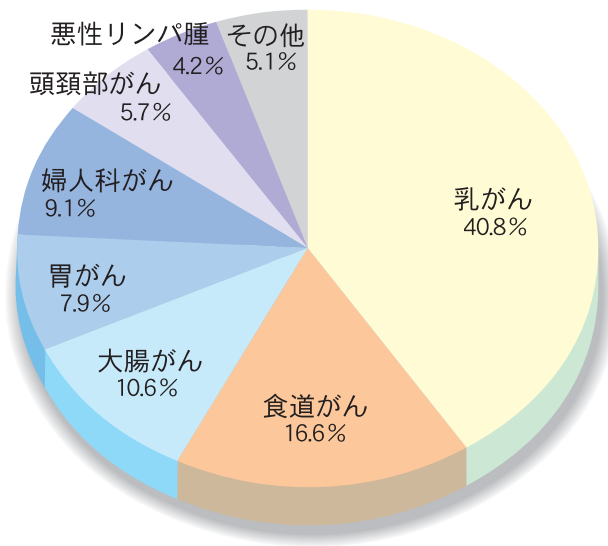


CVポート

## CVポートで血管確保問題を解決

### —患者さまより感謝の声—

また、点滴抗がん剤治療の場合は長期に亘ると血管確保が難しくなったり、静脈炎のために薬剤が血管外にもれるという問題が生じておりました。そこで当科では、上腕にCVポートを埋め込むことによりその問題を解決し、多くに患者さまより「ポートを入れてよかった」との声をいただいております。今までに当科のみでなく、他科の患者さまにもCVポートを適応し、その数は400例を超え、下記のごとく種々の疾患に及んでおります。



—上腕CV埋め込み—  
2006年1月～2010年5月 406例

## 新任医師の紹介



循環器科  
大和田直樹

本年4月より富澤信夫先生の後任として赴任いたしました循環器科の大和田です。東北大学加齢医学研究所心臓病電子医学分野出身で、専門は心臓病、循環器病態学です。当科の業務としましては、術前後、化学療法前後の心機能評価、不整脈、心不全の治療ならびにコンサルトが中心となっております。今後ともよろしくお願いたします。



婦人科  
藤田 信弘

昨年8月から当院で勤務しています婦人科の藤田です。産科のない病院で働くのは初めてで、分娩に対するストレスはなくなりました。多くの仲間が今も産科診療の最前線で大変苦勞している中で、後ろめたさを感じてはいますが、私に今与えられている役目をしっかりと果たしていきたいとおもいます。どうぞよろしくお願いたします。



血液内科  
井根 省二

平成21年10月からお世話になっております血液内科の井根でございます。当科に着任してから白血病・悪性リンパ腫・多発性骨髄腫など造血器悪性腫瘍のみならず、再生不良性貧血・特発性血小板減少性紫斑病・溶血性貧血など血液疾患全般の診療をさせて頂いております。何卒よろしくお願申し上げます。



頭頸科(耳鼻咽喉科)  
嵯峨井 俊

4月より東北労災病院より耳鼻咽喉科に赴任してまいりました。頭頸部癌を主とした耳鼻咽喉科の臨床医として患者さんの力になれるよう微力を尽くしたいと思います。どうぞよろしくお願いたします。



呼吸器内科  
菅原 綾

4月より呼吸器科でお世話になっております。これまでの経験を生かし苦痛の少ない検査を行うことと、最新の知識を身につけながら患者さん個々に応じた最適な医療を提供できるように心がけたいと思います。どうぞよろしくお願いたします。



頭頸科(耳鼻咽喉科)  
石田 英一

10月より頭頸科勤務となりました石田英一です。平成16年東北大学卒業で、これまでは主に福島県浜通りの中核病院であるいわき共立病院で一般耳鼻科診療に携わってきました。質の高いがん診療が提供していけるよう頑張りたいと思いますので、よろしくお願致します。



消化器科  
宮崎 武文

宮城県立がんセンター消化器科で4月からお世話になっております宮崎と申します。まだまだ若輩で不慣れな点がありますが、これからいろいろと勉強させていただきながら少しでも早く皆様のお役に立てるように頑張りたいと思っております。よろしくお願いたします。

## 退任された医師(平成22年3月末)

循環器科 富澤 信夫

耳鼻咽喉科 加藤 健吾

婦人科 永井 智之

